

# 定期作況報告

(第4号 平成25年8月20日現在)  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

7月下旬：最高気温は平年より2.0℃高く、最低気温も平年より1.4℃高かった。降水量は平年より32.5mm少なく、平年対比24%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より1.4時間多く、平年対比102%であった。夏日(最高気温25℃以上)は10日で、うち真夏日(最高気温30℃以上)は4日であった。

8月上旬：最高気温は平年より0.1℃低く、最低気温も平年より0.9℃低かった。降水量は平年より8.5mm少なく、平年対比80%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より12.1時間多く、平年対比123%であった。夏日は9日、うち真夏日は2日であった。

8月中旬：最高気温は平年より1.6℃高く、最低気温も平年より3.3℃高かった。降水量は平年より33.1mm多く、平年対比149%であった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より14.7時間少なく、平年対比68%であった。夏日は10日で、うち真夏日は2日であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	29.0	27.0	2.0	28.1	28.2	▲0.1	28.6	27.0	1.6	28.6	27.4	1.2
最低気温(℃)	17.7	16.3	1.4	17.5	18.4	▲0.9	20.3	17.0	3.3	18.5	17.2	1.3
平均気温(℃)	22.6	21.1	1.5	22.3	22.8	▲0.5	23.6	21.4	2.2	22.8	21.8	1.0
降水量(mm)	10.5	43.0	▲32.5	34.5	43.0	▲8.5	100.0	66.9	33.1	145.0	152.9	▲7.9
降水日数(日)	3	4	▲1	2	3	▲1	7	4	3	12	11	1
日照時間(hr)	58.6	57.2	1.4	63.7	51.6	12.1	31.6	46.3	▲14.7	153.9	155.1	▲1.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 1) 水 稲 : 良

5月20日現在 : やや不良

事由 : 播種は平年より1~2日遅い4月15日に行った。育苗期間中は低温寡照に推移したため、出芽揃に日数を要し、苗の生育は停滞した。移植は平年より1日遅い5月20日に行った。

移植時の草丈は平年より1.6~3.6cm低く、主稈葉数は平年より0.6~0.8枚少なく、茎数は平年より0.6~0.9本少なく、第1葉鞘高は平年より0.2~0.4cm高く、地上部乾物重は平年より1.21~2.02g軽かった。移植時の苗素質は平年を下回った。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

6月20日現在 : やや良

事由 : 5月末から6月中旬にかけて高温多照に推移したため、活着および初期生育は良好であった。生育は移植時の遅れを取り戻し、平年よりやや進んだ。

6月20日現在、主稈葉数は平年より0.2~0.4枚多く、 $m^2$ あたり茎数は平年より39~56%多く、草丈は平年より5.0~9.5cm高い。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

7月20日現在 : やや良

事由 : 7月上旬から中旬にかけて高温多照に推移したため、生育は平年よりかなり進んだ。幼穂形成期は平年より3~4日、止葉期は平年より4~5日、出穂期は平年より6~9日それぞれ早かった。穂揃日数は平年より1~2日短く、止葉葉数は平年並から0.6枚少なかった。

7月20日現在、主稈葉数は平年並から0.6枚少ないが、草丈は平年より3.5~8.6cm高い。生育進度は平年よりかなり速いが、 $m^2$ あたり茎数は平年より10~21%多い。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在作況 : 良

事由 : 7月下旬から8月中旬までの平均気温は平年よりやや高く、日照時間は平年並であった。出穂期後30日目の登熟歩合は平年より3.7~11.5ポイントそれぞれ高かった。

成熟期の稈長は平年並から4.6cm長く、穂長は平年並であり、 $m^2$ あたり穂数は平年より9~21%それぞれ多い。

したがって、目下の作況は「良」である。

表2 8月20日の水稻の生育

項目	品種名 /年次	ほしのゆめ			きらら397			ななつぼし			ゆめびりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.13	2	4.15	4.13	2	4.15	4.13	2	4.15	4.14	1	
	移植期 (月日)	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1	
	幼穂形成期 (月日)	6.20	6.24	△4	6.22	6.26	△4	6.20	6.23	△3	6.21	6.25	△4	
	止葉期 (月日)	7.05	7.10	△5	7.07	7.12	△5	7.06	7.10	△4	7.05	7.11	△5	
	出穂期 (月日)	7.15	7.22	△7	7.17	7.24	△7	7.16	7.22	△6	7.14	7.23	△9	
	成熟期 (月日)		9.06			9.12			9.10			9.10		
	穂揃日数 (日)	6	8	△2	6	7	△1	7	8	△1	7	8	△1	
	登熟日数 (日)		46			50			49			49		
生育日数 (日)		146			152			149			150			
移植時	草丈 (cm)	11.7	13.3	▲ 1.6	10.1	13.2	▲ 3.1	10.5	14.0	▲ 3.5	10.7	14.3	▲ 3.6	
	葉数 (枚)	3.4	4.0	▲ 0.6	3.5	4.3	▲ 0.8	3.4	4.2	▲ 0.8	3.6	4.4	▲ 0.8	
	茎数 (本)	1.2	2.1	▲ 0.9	1.4	2.0	▲ 0.6	1.1	1.9	▲ 0.8	1.5	2.1	▲ 0.6	
	第1葉鞘高 (cm)	3.0	2.6	0.4	2.8	2.5	0.3	2.8	2.6	0.2	2.8	2.5	0.3	
	地上部乾物重 (g/100本)	3.07	4.28	▲ 1.21	3.00	4.38	▲ 1.38	3.22	4.58	▲ 1.36	3.14	5.16	▲ 2.02	
	本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.4	8.0	0.4	8.8	8.6	0.2	8.4	8.2	0.2	8.7	8.4
		7月20日	10.1	10.1	0.0	10.8	11.2	▲ 0.4	10.0	10.5	▲ 0.5	10.2	10.8	▲ 0.6
		止葉葉数	10.1	10.1	0.0	10.8	11.2	▲ 0.4	10.0	10.5	▲ 0.5	10.2	10.8	▲ 0.6
茎数 (本/m <sup>2</sup> )		6月20日	878	614	264	900	647	253	792	543	249	922	590	332
		7月20日	901	792	109	861	784	77	813	723	90	923	764	159
草丈 (cm)		6月20日	43.0	36.6	6.4	38.5	33.5	5.0	46.5	38.8	7.7	44.3	34.8	9.5
		7月20日	85.9	79.5	6.4	77.4	73.9	3.5	86.4	83.0	3.4	84.5	75.9	8.6
出穂期後登熟歩合 (%)		20日目	29.6	15.7	13.9	22.9	14.4	8.5	17.3	13.6	3.7	19.0	11.9	7.1
	30日目	75.1	63.6	11.5	74.4	62.9	11.5	62.4	58.7	3.7	65.6	54.2	11.4	
	40日目		83.5			81.7			83.3			74.8		
成熟期	稈長 (cm)	69.3	64.7	4.6	62.8	62.8	0.0	69.1	68.5	0.6	66.1	65.3	0.8	
	穂長 (cm)	16.3	16.3	0.0	17.0	16.8	0.2	17.3	17.0	0.3	17.1	16.6	0.5	
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	843	737	106	805	702	103	722	660	62	860	713	147	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		42.8			43.4			50.4			44.1		
	m <sup>2</sup> あたり粒数 (×千)		31.4			30.2			33.3			31.4		
	稔実歩合 (%)		94.1			94.4			95.4			89.6		
	登熟歩合 (%)		87.4			86.1			90.5			80.0		
	籾摺歩合 (%)		79.9			80.4			81.6			78.3		
	屑米歩合 (%)		2.6			1.9			1.5			3.3		
	精玄米千粒重 (g)		22.6			23.4			22.5			22.6		
収量	藁重 (kg/10a)		630			604			639			664		
	精粗重 (kg/10a)		761			790			803			764		
	精玄米重 (kg/10a)		608			635			655			598		
	収量平年比 (%)		100			100			100			100		
	検査等級 (等)		1下			1下			1下			1下		

注 1) 「ほしのゆめ」「きらら397」「ななつぼし」の平年値は前7カ年の中、平成20年、平成21年を除く5カ年の平均。

「ゆめびりか」の平年値は前5カ年の平均。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm<sup>2</sup>あたり、床土 N 3.0g, P 7.2g, K 3.0g、置床 N 27.0g, P 34.0g, K 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m<sup>2</sup> (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P 9.7kg, 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦：不良

平成 24 年

9 月 20 日現在

平年の播種日は 9 月 12 日であるが、天候不順のため播種作業は遅れており、9 月 20 日時点で未播種である。

10 月 20 日現在：不良

事由：9 月中旬の降雨により、播種期は平年より 12 日遅れの 9 月 24 日となり、出芽期は平年より 10 日遅れの 10 月 1 日となった。播種が遅れたため、草丈、茎数、葉数とも平年を大きく下回っている。したがって、目下の作況は「不良」である。

平成 25 年

5 月 20 日現在：やや不良

事由：根雪始は平年より 6 日早く、根雪終は平年より 9 日遅く、積雪期間は平年より 15 日長い 153 日となった。雪腐病発病度は平年より低く、発生菌種は紅色雪腐病、雪腐褐色小粒菌核病および褐色雪腐病であった。出芽期が平年より 10 日遅く、越冬前茎数は少なかったが、越冬茎歩合は平年より高く、現在の茎数は平年より多い。一方、起生期以降、低温少照に経過したため生育は緩慢で、現在の草丈は平年より低い。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

6 月 20 日現在：やや不良

事由：5 月下旬以降、気温が高く経過したことから生育はやや回復し、出穂期は平年より 3 日遅い 6 月 10 日であった。茎数は平年よりやや多いが、高温少雨で経過したことから無効化が進み、前節より大幅に減少した。草丈は平年を大きく下回る。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

7 月 20 日現在：やや不良

事由：6 月下旬を除き、気温が高温で経過したことから登熟は進み、成熟期は平年並となった。穂数と穂長は平年並であるが、稈長は平年を大きく下回る。出穂以降、高温傾向で推移し、登熟期間が平年より 3 日短くなったことから、千粒重の低下が懸念される。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

8 月 20 日現在：不良

事由：前節の報告のとおり、稈長が平年を大きく下回り、生育が小出来であり、一穂粒数は平年より少なかったと推察される。また、登熟日数が平年より 3 日短く、高温傾向で推移したため、子実の登熟環境は不良であった。このため、リットル重は平年よりやや重いものの、千粒重は平年よりやや軽く、子実重は平年比 83 % と低収になった。

したがって、目下の作況は「不良」である。

表3 8月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.24	9.12	12
出芽期 (月.日)		10.01	9.21	10
出穂期 (月.日)		6.10	6.07	3
成熟期 (月.日)		7.19	7.19	0
越冬茎歩合 (%)		140.9	111.4	29.5
雪腐病発病度		6.3	14.0	▲ 7.7
葉数(枚)	平24年10月20日	3.2	4.8	▲ 1.6
草丈 (cm)	平24年10月20日	16.3	20.2	▲ 3.9
	平25年 5月20日	31.5	41.0	▲ 9.5
	平25年 6月20日	77.8	93.0	▲ 15.2
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	平24年10月20日	527	946	▲ 419
	平25年 5月20日	1576	1216	360
	平25年 6月20日	731	678	53
成 熟 期	稈長 (cm)	70	84	▲ 14
	穂長 (cm)	8.3	8.6	▲ 0.3
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	643	659	▲ 16
子実重 (kg/10a)		580	696	▲ 116
同上平年比 (%)		83	100	▲ 17
リットル重 (g)		817	794	23
千粒重 (g)		39.0	39.6	▲ 0.6
検査等級 (等)			2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 春まき小麦：やや良

5月20日現在：不良

事由：融雪の遅れとその後の天候不順のため、播種期は平年より2日遅い4月24日であった。播種後、低温に経過したことから、出芽期は平年より5日遅い5月10日であった。出芽後も低温に経過したため生育は緩慢で、草丈、茎数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「不良」である。

6月20日現在：平年並

事由：5月下旬以降、気温が高く経過したことから生育は回復し、出穂期は平年より2日早い6月18日であった。茎数は平年を大きく上回り、草丈は平年よりやや低い。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや不良

事由：稈長および穂長は平年並で、穂数は平年を上回っている。しかし、7月2日の突風を伴う豪雨により、「甚」程度に倒伏しており、子実充実への影響が懸念される。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在：やや良

事由：成熟期は平年より1日遅く、出穂期が平年より2日早かったため、登熟日数は平年より3日長かった。倒伏による品質面への影響が懸念されるが、子実重は平年比117%と多収となった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表4 8月20日の春まき小麦の生育

品 種 名		春よ恋		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	4.24	4.22	2
出芽期	(月.日)	5.10	5.05	5
出穂期	(月.日)	6.18	6.20	△ 2
成熟期	(月.日)	7.30	7.29	1
草丈 (cm)	5月20日	13.4	19.2	▲ 5.8
	6月20日	71.6	74.9	▲ 3.3
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	5月20日	319	574	▲ 255
	6月20日	843	641	202
成 熟 期	稈長 (cm)	89	92	▲ 3
	穂長 (cm)	8.7	8.6	0.1
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	550	469	81
子実重	(kg/10a)	527	452	75
同上	平年比 (%)	117	100	17
リットル重	(g)		790	
千粒重	(g)		39.6	
検査等級	(等)		2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、24年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

4) 大豆： やや不良

6月20日現在：良

事由：播種期は平年並の5月22日であった。播種直後に降水があり、5月第6半旬以降は高温に経過したため、出芽期は平年より3日早い6月1日であった。出芽期以降もかなり高温に経過したため、主茎長、主茎節数とも平年を大幅に上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：やや良

事由：7月2日の突風を伴う豪雨により、葉に穴が開き、茎はなびいたが、その後ほぼ回復した。6月下旬を除き高温に経過したため、開花期は平年より6日早かった。主茎長はほぼ平年並で、分枝数は平年よりやや多い。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：やや不良

事由：著しい高温、少雨により主茎長は前報からほとんど伸びておらず、倒伏は発生していない。分枝数は平年より多いが、干ばつの影響で着莢数は平年より少ない。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表5 8月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.22	5.22	0
出芽期	(月.日)	6.01	6.04	△ 3
開花期	(月.日)	7.06	7.12	△ 6
成熟期	(月.日)		9.22	
主茎長 (cm)	6月20日	18.2	11.8	6.4
	7月20日	64.4	63.8	0.6
	8月20日	65.6	71.1	▲ 5.5
	9月20日		71.9	
	成熟期		72.8	
主茎 節数 (節)	6月20日	6.0	4.3	1.7
	7月20日	10.5	10.2	0.3
	8月20日	10.4	10.4	0.0
	9月20日		10.5	
	成熟期		10.6	
分枝数 (本/株)	7月20日	7.5	6.7	0.8
	8月20日	8.3	7.0	1.3
	9月20日		6.0	
	成熟期		5.8	
着莢数 (個)	8月20日	70	87	▲ 17
	9月20日		75	
	成熟期		76	
子実重	(kg/10a)		427	
同上	平年比 (%)		100	
百粒重	(g)		37.7	
屑豆率	(%)		2.9	
検査等級	(等)		2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

5) 小豆：不良

6月20日現在：良

事由：播種期は平年より3日早い5月22日であった。播種直後に降水があり、5月第6半旬が高温、6月第1半旬がやや低温に経過したため、出芽期は平年より3日早い6月6日であった。出芽期以降、かなり高温多照に経過したため、主茎長、本葉数とも平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：良

事由：6月下旬はやや低温に経過したが、7月以降高温多照に経過し、適度に降水もあったため、主茎長、本葉数とも平年をやや上回っている。また、旺盛な生育のため、本来花芽となる第3本葉及び第4本葉節の腋芽が分枝となっている個体が多く、分枝数は平年を大きく上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

8月20日現在：不良

事由：7月中旬以降8月8日まで降水量が非常に少なく、高温多照に経過したため、7月末頃から圃場は著しい干ばつ状態となった。そのため、本葉数は平年をやや上回っているが上位葉が小さく、主茎長は平年よりかなり短い。また、分枝数は平年より多いが、着莢数は中位節での落莢が多かったため平年を大きく下回っている。

したがって、目下の作況は「不良」である。

表6 8月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.22	5.25	△ 3
出芽期	(月.日)	6.06	6.10	△ 4
開花期	(月.日)	7.21	7.22	△ 1
成熟期	(月.日)		9.4	
主茎長 (cm)	6月20日	5.6	4.5	1.1
	7月20日	38.2	34.4	3.8
	8月20日	53.7	71.2	▲ 17.5
	成熟期		76.0	
本葉数 (枚)	6月20日	2.3	1.0	1.3
	7月20日	10.3	9.3	1.0
	8月20日	13.6	13.0	0.6
主茎節数 (節)	成熟期		14.9	
分枝数 (本/株)	7月20日	8.3	5.7	2.6
	8月20日	7.3	5.5	1.8
	成熟期		5.0	
着莢数 (個/株)	8月20日	42.1	59.7	▲ 17.6
	成熟期		58.6	
子実重	(kg/10a)		323	
同上	平年比 (%)		100	
百粒重	(g)		12.0	
層豆率	(%)		2.2	
検査等級	(等)		3中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、平成20年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。



6) ばれいしょ： やや不良

5月20日現在

植付けは、平年（5月11日）より3日早い5月8日に行った。

6月20日現在：平年並

事由：植付けは平年より3日早かったが、植付後は低温の日が多かったため、萌芽期は平年並であった。5月第6半旬以降著しい高温と多照に経過し、圃場が乾燥したため、茎の伸長は抑制気味であったが、6月14日以降は降雨や曇天が続き、茎長は平年並に近づきつつある。また、開花始は平年より4日早かった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由：7月2日の突風を伴う豪雨により倒伏したが、その後は開き気味に起き上がり、茎長は平年をやや上回った。塊茎形成期の6月第3半旬までの少雨により、株当り上いも数は平年より2個以上少ないが、一個重が重いため、上いも収量はほぼ平年並である。7月以降高温に経過しているため、でん粉価は平年をやや下回っている。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや不良

事由：著しい高温と少雨により、7月中旬頃から茎葉が萎れ始め、黄変が進んでいる。上いも数は平年より3.5個少なく、一個重は平年より20g以上重い。干ばつの影響で上いも収量は平年より1割以上少ない。でん粉価はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表7 8月20日のばれいしょの生育

品 種 名		男爵薯		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.08	5.11	△ 3
萌芽期 (月.日)		5.29	5.29	0
開花始 (月.日)		6.20	6.24	△ 4
枯凋期 (月.日)			9.02	
茎長 (cm)	6月20日	31.9	34.6	▲ 2.7
	7月20日	52.8	50.2	2.6
上いも数 (個/株)	7月20日	7.5	9.7	▲ 2.2
	8月20日	8.6	12.1	▲ 3.5
上いも平均 一個重 (g)	7月20日	92	74	18
	8月20日	116	93	23
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	3047	3166	▲ 119
	8月20日	4429	4986	▲ 557
でん粉価 (%)	7月20日	12.8	13.5	▲ 0.7
	8月20日	15.1	15.2	▲ 0.1
収 穫 期	上いも数 (個/株)		12.0	
	上いも平均一個重(g)		93	
	上いも収量 (kg/10a)		4915	
	同上平年比 (%)		100	
	中以上いも収量(kg/10a)		4232	
	同上平年比 (%)		100	
	規格内いも収量(kg/10a)		4070	
	同上平年比 (%)		100	
	でん粉価 (%)		15.2	

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。